

事業概要書

事業名	福島県在住および出身高校生・大学生対象「復興リーダー人材育成事業」				
開始日	2019年9月1日	終了日	2020年8月31日	日数	366日
団体名 (カウンターパート)	一般社団法人 Bridge for Fukushima				
担当者名	伴場・安齋・沓沢・綿崎	スタッフ人数	6人		

事業費総額(税込)	5,852,000円
CF事業枠	5,000,000円
その他資金	852,000円

事業目的	<p>長期に渡る福島の復興を担う、起業家型人材を育成する。</p>
事業全体の概要	<p>● (Bridge for Fukushima) とは</p> <p>当団体は東日本大震災発生直後に、震災からのしなやかな復興に向けて立ち上がった団体です。復興を緊急救援期・復興前期・復興後期の3つのフェーズに分けて活動しています。ベーシックヒューマンニーズが必要とされる緊急救援期は、物資(主に水)の配布と、被災地リーダーのソーシャルキャピタルを増すことを目的に企業とNPOのマッチング事業やヒューマン・ツーリズムなどを行い、人材育成と仕組みづくりが必要な復興前期である現在は、被災地の高校生・大学生を対象としたリーダー人材育成と県内NPOのエンパワーメント事業などをメインに行なっています。</p> <p>2011年からの3年間は、主に福島県相双地域において緊急物資の支援(約10億円相当を述べ12万人に配布)、ボランティアツアーの企画(企業対象・20回実施)等を行いました。2014年からは①高校生・大学生の人材育成事業: 県内6県立高校でのプロジェクト型学習授業の実施、市内コミュニティスペースでのBFFカレッジ運営、大人の話聞く会などの開催、ロジックモデル研修など(現在高校生300名、大学生120名が活動中)、②社会起業家の事業: 被災地ツアー企画(述べ6,000人を案内)、県立福島高校スーパーサイエンス部の「陸上養殖によるウナギ養殖」への伴走支援などを行なっています。</p> <p>当団体のビジョンは、「新しいことに挑戦する若者を次々に輩出して、その人材を応援する風土が生まれることにより、復興を実現するとともに、日本一チャレンジに優しい地域=福島を創ること」です。</p> <p>● 取り組むべき課題</p> <p>被災地 福島の高校生は自分たちもその被災者であるにもかかわらず、復興の過程を目のあたりにしてきた成長とともに体感してきたことから、復興課題や社会課題を自分事としてとらえているため、関心も高く30年以上かかるといわれている復興の過程に自分たちが関わりたいという意識がありま</p>

す。具体的には、福島県立安積高校で行われたアンケートの中で80%が復興にどのような形でも関わりたいとの結果となりました。そんな中当団体では、2013年より高校生・大学生を対象として復興課題・社会課題に対してPBL（プロジェクト型学習）を通じた実践的な人材育成事業を行ってきました。PBLは、学習過程をKnowing→Doing⇒Beingと分け、Knowingでは「課題を見つける」「課題を深掘する」「解決策を見出す」、Doingでは「解決策の実践」、Beingではより深い知識・実践に基づく経験・ソーシャルネットワークをつけたことで、リーダーシップが向上することを目的としてプログラムを行ってきました。

本事業においては、震災から8年が経過した現状を加味し、高校生大学生がより実践的な課題解決の手法を学べるようより専門的なアプローチかつ、ITや起業といった現在の高校生・大学生が身に着けたいと考えているスキルを掛け合わせて、包括的な学びとなるように以下7つの活動を行いたいと考えています。

新規の参加者を増やすためには、事業ごとに、団体ホームページやfacebookを使って広く告知する、高校生対象事業については県内の教育委員会に後援依頼をしてPRに協力いただく、別事業で関わっている県内高校の先生方に協力いただいて興味のあるような高校生に直接案内する、などの広報活動を行います。また、一度参加した学生が別のプログラムに参加することも想定しており、その度にスキルやコンピテンシーを身に付けてステップアップが可能です。高校時代に学びと経験を積んだ参加者が大学生になり、今度は後輩である高校生たちのメンターとして活躍することも期待できます。

● パートナー協働プログラム対象事業

① 高校生インターン（9月～8月）

受け入れ企業が抱える課題に主体的に取り組むことで、事業運営に関する知見とスキルを身につけるプログラムです。対象は、4事業所・各1～2名。期間は6カ月で週に8時間程度のペースで実施。福島県内の高校生4～8人ほどを予定。

② カッコいい大人（1月・2月・4月・6月）

高校生が将来進みたい、または興味がある業界・職種で活躍している大人にこれまでのキャリア等について話を聞きます。1人の大人に対して、その業界に興味がある少人数の学生が参加するスタイルなので、質疑応答を挟みながらじっくりと話を聞くことができます。年に4回程度開催。福島県内の高校生5～10人を予定。

③ ソラトブルマ（3月）

上記「カッコいい大人」の合宿(2泊3日)バージョン。「クルマが空を飛ぶであろう時代＝未来に向けて、自分たちの将来像について考えよう」というコンセプトからネーミング。様々な業界の合計5～6人の大人の話の一度に聞くことができるので、学生の興味の幅が広がることも多いプログラムです。合宿スタイルなので、より深掘りした経験談を聞くことができます。ゲストの大人以外に、メンターとして参加している大学生の体験談や考え方も聞けることも特徴です。年に1回開催。福島県内の高校生及び福島県出身の大学生5～10人を予定。場所は、二本松市の「フォレストパークあだたら」を予定。

④ 地域外研修（9月・3月）

「教育」「環境」「IT」「農業」など、学生たちの興味関心があるテーマを設定。その分野での社会課題解決の先進地を2泊から3泊で視察。団体スタッフが伴走しながら、視察先の選定・交渉から事前課題・当日のワーク・視察の振り返りまで、学生が主体的に取り組むプログラムです。年に2カ所（9月は宮崎県新富町周辺、3月は未定）程度を予定。

福島県出身の大学生、卒業前の高校3年生など合計8～10名（1カ所 4～5名）。

⑤ プロジェクト・プランニング教室（9月～8月 月1回程度）

「主体的にプロジェクトを起こしたいけど、どう進めれば良いかわからない」「そもそも社会課題をどうやって見つければ良いのかわからない」という学生に伴走するプログラムです。月に1回程度、定期的で開催して、学生の個別の要望に対応します。福島県内の高校生5～10人を予定。

⑥ スモールスタート（9月～8月 申請ごとに随時）

主体的にプロジェクトを起こしたいという学生を対象に、スタート時もしくはプロトタイプ作成時に活動資金を助成する取り組みです。福島県内の高校生及び福島県出身の大学生4～6人を予定。

⑦ 高校生・大学生の交流プログラム（12月・8月）

大学生の帰省シーズンである夏休み・冬休みの合計2回、高校生との交流合宿を行います。大学生がメンターとなり、ワークショップ形式を主体に進行。進学や将来のキャリア形成、それぞれが進めるプロジェクトやその計画の課題等について、大学生から学ぶプログラムです。福島県内の高校生、福島県出身の大学生10～15人を予定。

●期待される効果

当団体は復興課題・社会課題に対してPBL（プロジェクト型学習）を通じた実践的な人材育成事業を行ってきました。高校生や大学生がより実践的な課題解決の手法を学べるよう専門的なアプローチを行ってきた実績があり、当団体のプログラムは他ではなかなか得られない経験を得る機会となっています。

当団体では参加した学生の成長をルーブリックという手法で、客観的に把握しています。ルーブリックとは、成長度合いを判断する評価表のことです。当団体の場合は「課題発見力」「アントレプレナーシップ」「リーダーシップ」「実行力」「社会・復興への関心」の5分野・合計17の評価項目ごとに、参加時と終了時の最低2回、5段階で評価して、成長度合いを把握しています。当事業においては、ルーブリック評価の数値が、各項目平均で1以上増加することを成果目標とします。

（「ルーブリック評価」参考ホームページ）

○文部科学省「学習評価に関する資料」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/061/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/02/01/1366444_6_2.pdf

○コアネット教育総合研究所

<http://www.core-net.net/g-edu/issue/6/>

近い将来、このプログラムに参加した学生たちがさらに成長することで、福島県の復興に資する様々な社会課題を解決していくことを期待しています。

当団体の今までのプログラム実績から、学生による主体的なミーティングや勉強会、振り返りの会を体感し、学校では得られない経験をすることが学生たちの成長の一助となることが見込めます。また、いくつかのプログラムに参加することで問題を解決する思考が鍛えられるため、ファシリテーション能力を得たり、リーダーとしての活動を行える力も身につけるといった効果も期待されます。

事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)

裨益者 (誰が、何人)

- ①高校生インターン
- ②カッコいい大人
- ③ソラトブルマ
- ④地域外研修
- ⑤プロジェクト・プランニング教室
- ⑥スモールスタート
- ⑦高校生・大学生の交流プログラム

福島県内の高校生、福島県出身の大学生
約 40~70 名ほど